

1月 給食だよ！

January

平成29年 1月 10日
深谷市立幡羅小学校

1月24日から30日は
全国学校給食週間です



学校給食は、栄養バランスのとれた食事によって、子どもたちの心身の成長を支え、共に、「生きた教材」として、生涯にわたって健康で充実した生活を送るための自己管理能力を育てるなどの役割があります。
全国学校給食週間は、このような学校給食の意義や役割などについて理解と関心を高め、より一層の充実をはかることを目的に定められました。この機会に、学校給食の大切さや役割について考えてみましょう。
幡羅小学校では、24日(火)の給食集會に合わせて、給食に関する取組を実施する予定です。

給食の歴史を見てみよう！

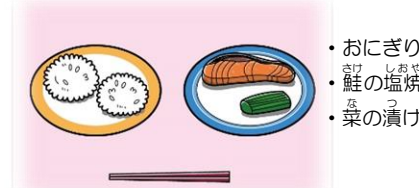


明治22年
貧しい家庭の子どもたちは、子守で学校に行けなかったり、弁当を持参できなかったりしました。

昭和21年
佐藤雪山というお坊さんが中心となって、托鉢してお金を集め、給食費にあてました。

昭和25年
山形県の忠愛小学校では、給食が食べられるようになり、貧しい子どもたちも学校で食べるようになりました。

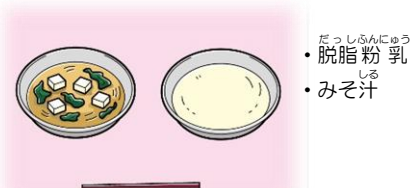
明治22年 ~学校給食の起源~



- おにぎり
- 鮭の塩焼き
- 菜の漬け物

山形県で、最初の学校給食が実施されました。

昭和21年 ~脱脂粉乳の導入~



- 脱脂粉乳
- みそ汁

戦後初の学校給食が開始されました。

昭和25年 ~パン給食の導入~



- コッパン
- 脱脂粉乳
- 鮫の竜田揚げ
- 千キャベツ
- ジャム

8大都市で、初めての完全給食が実施されました。

昭和40年 ~牛乳の本格的な導入~



- ソフトめんのカレーあんかけ
- 牛乳
- 甘酢あん
- 果物(黄桃)
- チーズ

学校給食への牛乳の本格的な導入が開始されました。

昭和51年 ~米飯給食の導入~



- カレーライス
- 牛乳
- 塩もみ
- パナナ

学校給食制度に米飯が正式に導入されました。

現在 ~生きた教材として~



豊かな給食になるまでの道のり

明治22年

学校給食のはじまり

山形県の忠愛小学校で経済的に恵まれない児童に、おにぎりや塩ざけ、菜の漬物を昼食として出したことが、学校給食のはじまりといわれています。

昭和16年

戦争で学校給食の危機

戦争で学校給食を続けることが難しくなり、学童疎開により、ついに中止となりました。

昭和21年

戦後初の学校給食開始

12月24日、試験的に東京都、神奈川県、千葉県で戦後はじめての学校給食がつくれ、記念すべき日となりました。冬休みとの関係で、その1か月後の1月24日からの1週間が学校給食週間とされました。

昭和25年

完全給食のはじまり

アメリカ合衆国から小麦粉が送られ、パン、ミルク(脱脂粉乳)、おかずの完全給食が行われました。

昭和29年

学校給食に関する法律の制定

学校給食は、子どもたちの体力向上だけでなく、教育としても考えられるようになり、国の法律として「学校給食法」が制定されました。

昭和40年

ミルク(脱脂粉乳)から牛乳へ

学校給食用飲料として、ミルク(脱脂粉乳)から牛乳へと切りかえがはじまりました。

昭和51年

米中心の献立に

米を使った学校給食が正式にはじまりました。

現在

世界に誇れる学校給食

地元でとれた食材を使った特色ある給食や、郷土給食、バイキング給食、世界の料理給食など献立の種類も増え、豊かで恵まれた学校給食が行われています。

ただ

食べるだけではもったいない！ 学校給食の役割とは？

学校給食のはじまりは、児童を栄養不足から救うためのものでした。しかし、現在では、栄養補給の役割のほかにも、食品を選択する能力、食事のマナー、感謝の心、地域の食材や郷土食を学ぶ教材としての役割も持っています。
給食を食べながら、食に関する知識をどんどん身に付けていきましょう。

